

# 4.28 明治公園での驚くべき敵行君、国家暴力と統制

— 中核派解放派、「全曰反戦、今野世話をか  
革マル系諸団体の非難を又々に要請 —

## 集会破壊を断手糾弾せよ

。ベト戦のインシナ半島への拡大ーカンボジア侵攻反対。  
。沖縄復帰準備委員会、安保粉碎、日米共同声明粉碎。  
。既成指導部の腐敗に抗し、反戦、反安保、沖縄斗争の更なる前進を切り開く！

70.5.8

### 全大阪南北反戦吉田委員会

七年のイニシア半島全域への侵略戦争  
拡大糾弾、大阪陸軍事使用廃止、安保粉碎  
に立ち上った全ての労働者、学生、市民  
の草根ノリ、とりわけ反戦青年委、ベ平連  
など新左翼の一翼を担う先進的活動家諸君  
一々高揚をみどり、70年6月安保自動  
延長に向けて、無気力な既成反対運動をの  
じて戦斗的革命的斗争へ邁進すべしと  
ハばから無い。だが吉田、この時報告す  
るに恥と苦痛のうめきの件、つむぐベキ事實  
ありと報告せねばならぬ。二・二七一起  
ベヒ。それは、4、5の沖縄テーの東京  
明治公園の原爆市民大集会行動における「  
全曰反戦」代表世話人、今野衣万よび中核  
派、解説派などによる权力への革マル系全  
壇連、反戦青年委に対する強圧要請、敵  
行為である。ひとつこの日も保ヨ申にあいて、  
全壇連のヨイドトロシキストリニア並命と烈  
度し、集会場で口上を張り、口上なりか、权  
力に強圧を要請した日の反戦命喚。

その反革命的人民をり起し行焉又、70年4  
、5月連で、仕すらぬ「全曰反戦」指導部  
と中核、青年などの指導部のまじめつこ再  
び口上したのであった。

われわれ、全大阪南部反戦、北東反戦は  
この反階級的、反革命的行為の意味すると  
へは余りにも重大であると考え(天皇討伐の島  
これと公然とバクロい、糾弾するとともに、  
その当事者たちに対する誠実な自己批判  
を訴えとこそ要求するものである。

(驚くべき)事実

— 中核派、解説派と「全曰反戦」今野世話  
人による权力への革マル系諸団体の走り渡

當日、全国連は明治公園における6月行

加委、全曰反戦、全曰全壇連の者主催の  
連戦が4、各統一行動に對して、「革マル系全壇

連も理由は餘りありません」というの旨  
集会の責任主体の用意活動へらの旨の日  
の文書回答に基づき、正式の参加団体とし  
て清水谷公園の全壇連の独自集会の后、  
デモで明治公園に到着した。しかし、此区  
反戦、反戦高連が加わり、500名の大群  
隊が近づくやハサヤ、中核派、社青園解説  
派は公園入りを禁止の、槍立する、ゴビケ  
を張り、全壇連、先進的労働者の集会参加  
に「武表」敵対したのだ。ところが、  
全壇連、反戦の大部隊さきのあたりにし、  
これをどこにも阻止できぬりとみぢや、  
彼等は最初の、そこそこ先も重荷も莫大に訴  
え立つてある。すなわち、主催者に重荷取  
取にきた警視庁に對して、今野ら全曰反戦  
、全天連を召集する輩、公然と革マルをメ  
れなりと強こい。入れにら大変なことには  
る」と正式に、り、全壇連、反戦の集会參  
加を禁物の力で阻止してくるよう申し  
入にと行なつたのである。权力はこれを口  
頭にして革マル系諸団体の大部隊の会場へ  
へ入場を阻止したのである。

まさにこれがまさに反革命的通敵行為(在前に  
しこべ平連などの6月行動委員会は、の上  
ケを張って全壇連の参加を更刀と阻止して  
ウとここに)こと、②、革マルを入れない、  
と書うよう口上者で承認されていて  
、ここを、ここもありううに、权力に異議  
じまひ進行したじつての理由から、全  
曰反戦、全壇連に抗戦し、う若者達から再  
びのことを言ふ。)(一)(二)

の赤旗闘争が下部の離反をさせられ、<sup>ビバ</sup>全ての日行動委員会は話人、大沢氏、吉川氏らによって確認され、かつ

の行進の集会を行って報告されたことであり、当時のテレミニースでも報道された事である。更にこの事實についこはり日10日号「朝日ジャーナル」に詳しく述べられる。そして明治公國のデモが発生する頃まで、<sup>ビバ</sup>の壁でカン葉状態に差し向かうのである。この嚴重な規制区全導連のヘル部隊を先頭に実力でうちやぶり、明治公園に戻つたのも、刃刀はデモの罪を追うことなく、さつて阻止したのである。デモ申請に対する、10月に結集した全ての団体が集会、デモに参加する旨、3者共議も、全員反対の今時こんな言つてニヒリを口実とし、ついに弾薬を保有する刃刀は、この時に、ついにこの一大爆發を封殺し、「内ゲバを防ぐ」と理由に急遽清水谷公園へのコースをおしつけたのである。

中核派、解教派、そしてトマル8派の大兵による「全員反対」を名乗る部分によるこの通敵行為によつて、明治公園における統一集会が破壊されたのである。いやそれはアリではあり。反安保・弾薬斗争を唯一革命的に想つて来た進歩的労働者・学生の最大部隊を刃刀に走り、規制と彈圧下におくことによって、8派により私物化された「全員反対」、全導連は、からくもそのカンパニア集会その通り、4・28斗争が、既成社共の歪曲された運動となり、ついにその実現されることを拒んでるのである。

だだそうすることによって、自らのその反動的、反革命的通敵行為やその組織的動搖に今や耳び、中核、青幹派は見舞つてはいるのであり、われわれは断乎として、かかる行為を糾弾する。

### 中核派の恐怖心にかられずアガキの背景

#### 「革マレ世人滅」路線の反革命性

そもそも当初、メフロリ中核派は、わざ全導連、反戦、<sup>ビバ</sup>の行進会参加申入れに対して、あくやるデマと中傷によつてその排除に狂奔したのである。ところが、われわれの斗争によつて集会への参加が確認され、明治公國とのデモの許可をからとられたことに對して、<sup>ビバ</sup>刃刀に対しても不許可にはることに一切の期待をかけていたメフロリ中核派は、一に對し、完全におじろき、血坐

して解教派が今度は、刃刀にわざ全導連、反戦の実業的労働者・学生への弾圧と西頭すらといつ反革命的行為に出たのである。

ビバビバ自らの破滅と、昨秋の<sup>ビバ</sup>じく滅ぼらぬ自ら刃刀によつてせん滅<sup>ビバ</sup>へられた組織的瓦解と、大衆運動主義者の眞面目の破産をのりきるための6月行動委員会利用に対する、アソシエーション<sup>ビバ</sup>中核派の最後の手段であつたの<sup>ビバ</sup>。この内の彼らの武裝蜂起に対する、そここそが必然破滅に対する徹底した批判を展開してさだわれられ、ヨリに恐怖した彼らの、「革マレ世人滅」路線の名の下に乱化した敵対行為があるのである。<sup>ビバ</sup>減路線は、<sup>ビバ</sup>西<sup>ビバ</sup>生、反戦による東反戦代表へのテロと、全導連西<sup>ビバ</sup>生、<sup>ビバ</sup>共ヨハ集会への参加に対する暴力的脅威<sup>ビバ</sup>どことによる<sup>ビバ</sup>の介入によって集会は破壊され、ついに降の全大陸反戦が飛越<sup>ビバ</sup>に陥り、<sup>ビバ</sup>こことは意慮に新しい。そして、それ以後、全大陸反戦の西生のギハに對して、中核派は、<sup>ビバ</sup>「革マレ<sup>ビバ</sup>來<sup>ビバ</sup>らどん<sup>ビバ</sup>統一集会でもせん滅<sup>ビバ</sup>せう<sup>ビバ</sup>」、「革マレ<sup>ビバ</sup>來<sup>ビバ</sup>らどうにするかじかはい」と敵対をつづけてはいるのである。

### 反戦・反安保・弾薬斗争の更なる高揚

#### つくりにせん

毎日11日、日本外相声明によつて油縄在政の72年退

還を決定し、日本軍事回目の更なる強化を確定した。日本は、本帝のカニ不ジア侵攻、北爆再用に對して、これを支持し、5月15日のインドネシアでの、事實上の参戦公會設立慶祝外相を送ることを決り、日本共回声明の日本的身主体の策動に突入したのである。

他う、米帝のカンボジア侵攻のその日に、政友スロー<sup>ビバ</sup>ガニを一切違うし、同盟との統一メーデーに右ヨツ的に労働運動をひとづつへんに總評、そして油縄の地においても日政参加、衆院選にうつとねりしてはいる人民愛(民)社会を愛。あやに<sup>ビバ</sup>の日本階級斗争の危機的現実を、その根柢から突破するヨリは、今こそ反戦・反安保・弾薬斗争の戦斗的、革命的斗争を断固として、既成反対運動をへりこえろべく、同時にトマル8派の通敵行為の反革命的妄想をもうらやぶりながら、大衆的に実現されなければならぬ。5月23日の革命的言論場を正側面<sup>ビバ</sup>くりだそえはねいか。